

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	<p>この授業のテーマは、『自分が大学で学ぼう（または、取り組もう）と考えていること・ものについて、その内容や楽しさ（やりがい）、大学で学ぶことの意義など』です。そのテーマに基づいて、皆さんが授業で行う活動の大きな柱は、次の3つです。①クラスの仲間や教員との対話（自分自身と対話も＝省察）、②パワーポイントソフトによる発表資料の作成とプレゼンテーション（発表者に対するフィードバックも行います）、③自己の変化や成長への振り返りと文章化。</p> <p>異なる専門分野を目指しているクラスの仲間や教員を前にしてプレゼンテーションする機会は、自らの大学における学び（発表内容そのもの）について深く考えることへつながります。発表の本番は緊張するかもしれませんが、仲間からの貴重なフィードバックももたらされます。それらは、自分一人では気づくことの難しかった（異なる専門分野を目指す学生が交流するからこそ）新たな見方や考え方、これから過ごす大学生活におけるヒントです。</p> <p>互恵的なクラス環境のなかで、自らの大学における学びについて、仲間との対話や省察、表現と応答が新たな気づきや発見を生むことについて、学生一人ひとりがそのプロセスを体験する場として本科目は開設されています。</p>
課題協学科目	課題協学科目	<p>この科目では文理混合した150名の学生によってクラスを編成し、クラス毎にテーマ（教室テーマ）を設定しています。専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供します。授業では皆さんが協学課題を考えるために必要となる講義を実施しますが、教員は講義形式の学びだけでなく、個人演習による自らの学び、そしてグループ作業等による学生同士の学びを重視しています。</p> <p>この科目の目的は、グループ作業や個人演習を通して、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢、問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことです。</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	<p>この授業では、世界の時事問題に関する英語のニュースを読む能力を涵養し、それらに関する内容の要約を英語で書くことを目標とする。英語で発信されるニュースの内容は多岐に渡るが、その情報を理解するためには語彙や表現などについて一定の訓練が必要である。この授業ではインターネット上に掲載される英語の記事や英字新聞などに現れる語彙および英語表現を学び、それらを使って的確に内容を要約する力を涵養する。また、英語で発信されたニュースを通して現代社会の重要な課題についての情報を収集する訓練を行う。【Reading (500語)、要約力、情報収集力】</p> <p>This course aims to develop the ability to read and summarize English news on current affairs from around the world. English news covers various topics; this implies reading news articles requires knowledge of special vocabulary and expressions on a wide range of issues. In this course, students will learn English words and expressions frequently used in online articles and newspapers, and will learn how to summarize the news content. Students will also learn how to gather information on issues important in modern society through news on global issues.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	<p>この授業は、世界の時事問題に関する英語のニュースを読む能力を涵養するための上級レベルのコースで、インターネットなどを通じて収集した情報を基に自分の考えを英語で書くことを目標とする。学生は英語ニュースの読解に必要な語彙や表現を継続的に学び、関心のあるテーマを掘り下げて情報を収集する。また、グループ活動等で意見交換をしながら自分の考えをまとめ、500語程度のエッセイを提出する。【Reading (800語)、Writing (意見:500語)】</p> <p>This class is an advanced course to develop the ability to read English news on current global issues. The goal of this course is to write an opinion essay in English based on the information gathered through Internet research. Students will learn the vocabulary and expressions necessary for reading English news and will be required to compile information on topics covering their own interests. Also, students will exchange opinions through group discussion and finally submit an essay on global issues of about 500 words.</p>

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Global Issues LS1	<p>この授業では、世界の時事問題に関する英語のニュースを聞く能力を涵養し、それらに関して自分で調べたことや考えたことを口頭で意見交換する力を身につけることを目標とする。特に、耳から英語をインプットする訓練を集中的に行い、ある程度の長さ(5分程度)のある英文を、メモなどを取りながら理解するための基礎を身につける。また、意見交換を行う際の口語表現を学び、ディスカッションやディベートを行う基礎力を養う。【listening (5分), spoken interaction】</p> <p>This course aims to develop the ability to listen to English news on current affairs around the world and to develop the ability to exchange opinions about the given topic through conversation in English. Specifically, intensive training will be conducted to enhance the ability to listen to and understand English news broadcast (about 5 minutes) while taking notes. Students will also learn colloquial expressions frequently used when expressing opinions to build the foundation for discussion and debate.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Global Issues LS2	<p>この授業では、世界の時事問題に関する英語のニュースを聞く能力を涵養するための上級の授業で、英語による学術的な授業を受けるための基礎力を身につけることを目指す。また、特定のテーマについて自分で調べたことや考えたことを発表する力を身につけることを目標とし、世界的に広く視聴されているプレゼンテーションなどを題材として、効果的なプレゼンテーションの技法の習得を目指す。【listening (8分), presentation】</p> <p>This is an advanced course for listening to and speaking about global issues in English aiming to build the foundation for understanding academic lectures in English. Students will also learn how to make an effective presentation on a given topic through watching online presentations widely shared around the world.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Japanese Issues 1	<p>この授業は、日本の時事問題についての英語のニュースを読み聞きし、日本についての客観的な視座を得ることを目標とし、その詳細や背景などについての追加的な説明ができるようになることを目指す。また、日本国内の報道と国外の報道を比較し、批判的思考力を涵養する。さらにグループ内でのディスカッションなどを通して意見を交換し、集団で討論する手法を身につける。【Listening (10分)、ディスカッション】</p> <p>This course aims to develop an objective perspective toward Japanese current affairs by reading and listening to English news on that topic and to develop the ability to elaborate on the details and the background of the news. Students will consider the differences of the news covered inside and outside of Japan to improve the ability to think critically. Students will also learn how to participate in or lead a discussion in groups using the topics of Japanese issues.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Japanese Issues 2	<p>この授業は日本の時事問題についての英語のニュースを読み聞きし、意見交換をするための上級レベルのコースで、一定の立場に立って英語で意見を述べたり、対立する意見を調整したりする力を養うことを目指す。英語のニュースを読んだり聞いたりする習慣を身につけ、それらについて日常的に英語で考えをまとめる。また、グループでの意見交換などを通してディベートを行うための基礎力を身につける。【Listening (15分)、ディベート】</p> <p>This is an advanced course on reading and listening to news on Japanese current issues aiming to develop the ability to express and coordinate opinions on controversial issues. Students will be required to read and listen to English news on Japanese issues and to write their opinions on daily basis. Students will also learn how to debate on controversial issues through group activities.</p>

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Academic Issues 1	<p>この授業は学術的な英文を読むための語彙や表現を身につけることを目標とし、それらを使って学術的な内容を英語で作文する力を育成することを目指す。学術英語の修得のための一つのポイントは、各分野の専門語彙や学術的な表現を学ぶことである。この授業では入門的な学術英文を通してそれらを学び、学術的な英文を書く基礎となるパラグラフライティングについて学ぶ。また、ライティングのaccuracyを高めるために必要な文法の指導などを行う。【Reading(500語)、Writing基礎、語彙文法】</p> <p>This course aims to acquire vocabulary and expressions for reading academic English passages and to nurture the ability to write English sentences appropriate for academic purposes. One of the keys to acquiring academic English is to learn specialized vocabulary and academic expressions in each field. In this course, students will learn these through introductory academic English essays while learning the basics of paragraph writing. Grammar training will be also conducted to raise the accuracy of students' writing.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Academic Issues 2	<p>この授業は、学術的な英文を読み解く力を涵養することを目指し、同時に学術英語特有のスタイルを学ぶことを目指す。学術英語の読解を継続的に実施し、自分の関心のある分野の入門文献が読めるようになることを目指す。また、学術雑誌等に投稿するためのスタイルを学び、適切な引用の仕方や参考文献の作成の方法など形式的な面についても学習し、適切にフォーマットされた500語程度の英文を書くことを目指す。【Reading (800語) Writing (スタイルの学習、500語)】</p> <p>This course aims to develop the ability to read English academic articles and to learn the academic styles for quotations and references. Students will be required to read academic articles each week and will develop the ability to read introductory books and articles of their own interest. Also, students will learn how to quote and how to make a reference list using an academic style and will be required to submit an essay that is appropriately formatted for academic purposes of about 500 words.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Academic Issues 3	<p>この授業は学術的な英文を読み書きするための上級レベルのコースで、より高度な読解力の涵養と800語程度の長さの研究論文を書くことを目標とする。幅広い分野の論文を読むための基礎となるよう、様々な分野の入門書を読む訓練を行う。また、論拠となる統計情報やデータを収集するための知識と技術を身につけることを目指す、それらの外部の情報を適切に英文に組み込むための訓練を行う。【Reading (1000語)、Writing (800語)】</p> <p>This is an advanced course for reading and writing academic English aiming to develop advanced reading skills and the ability to write a research paper in about 800 words. To be able to read papers on various topics, students will be required to read introductory chapters on various fields. Students will also learn how to collect statistical information and data, and how to incorporate these data into their research paper.</p>
言語文化科目	言語文化基礎科目	Intensive English: Academic Issues 4	<p>この授業は学術英語に関する上級授業で、専門分野に入るための高度な英語力を身につけることを目指す。関心のある分野の代表的な論文を読みこなせるようになることを目指す、継続的な読解の訓練を行う。また、自分の考えをまとめた英文を、資料などを示しながらクラスで発表することを目指すとし、口頭での質疑応答に対応するための基礎力を養う。【Reading (1500語)、質疑応答を含む発表】</p> <p>This is an advanced course on Academic English aiming to develop advanced English skills for academic fields. Students will continue to read and learn academic articles to be able to read representative papers in each field. Students will also learn how to present their research using graphical materials and to conduct simple question and answer sessions.</p>

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語ゼミ・リーディング・リスニング	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、リーディング、及びリスニング活動を通して強化するゼミ形式の科目である。具体的なテーマについて自身で問いを立て、その問いに答えるために、様々な文献をリサーチし、問いに適切に答えるための情報収集・分析・評価・考察方法を習得する。学生グループによる自主的学習などを含め、教室内外で90時間の学習時間を必要とする。副題が異なれば重複履修可。
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語ゼミ・ライティング・スピーキング	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、ライティング、及びスピーキング活動を通して強化するゼミ形式の科目である。具体的なテーマについて調査・分析し、その結果をリサーチペーパー、アナリティカルペーパー、ブックレビュー、新聞記事等、様々なジャンルの規範に応じて執筆・発表する訓練を行う。学生グループによる自主的学習などを含め、教室内外で90時間の学習時間を必要とする。副題が異なれば重複履修可。
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語ゼミ・オーラル・コミュニケーション	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、オーラル・コミュニケーション活動を通して強化するゼミ形式の科目である。具体的なテーマについて調査・分析し、その結果をプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、スピーチ等、様々なジャンルの規範に応じて発信する訓練を行う。学生グループによる自主的学習などを含め、教室内外で90時間の学習時間を必要とする。副題が異なれば重複履修可。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、初歩的な文法や語彙を勉強し、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。動詞、形容詞の過去、非過去の活用を学び、ひらがなやカタカナ、日常生活で使用される基本的な漢字で書かれた語句や文を理解できるようにする。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Beginners B	日本語を少し学習したことのある学習者を対象に、初歩的な文法や語彙を勉強し、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。動詞、形容詞の過去・非過去以外の活用を学び、日常生活の場面で使用されるやや複雑な語句や文を理解し表現できるようにする。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	動詞、形容詞の過去、非過去の活用がわかる人を対象とする。動詞、形容詞の普通形・過去形、形容詞の比較級、動詞の可能形・意志形、授受表現など日常会話に必要な基本的文法や語彙を学び、身近な話題で会話ができる日本語能力を養成する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	動詞、形容詞の普通形・過去形、形容詞の比較級、動詞の可能形・意志形などがわかる人を対象とする。既習の動詞、形容詞の各種の活用を復習しながら、授受表現やモダリティなど日常会話に必要な文法や語彙を学び、幅の広い話題で会話ができる日本語能力を養成する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙を学習した人を対象とする。初級後半の文法、語彙及びその使い方を勉強し、いろいろな場面で使えるようになることを目指す。また、初級レベルの文法知識、語彙の学習を終え、基本的な日本語を理解することができるようにする。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	初級後半の文法、語彙及びその使い方を学習した人を対象とする。初級レベルの文法、語彙及びその使い方を練習し、使役、受身及び使役受身など日常生活に必要なやや難しい文法や語彙を学ぶ。また、初級レベルの文法知識、語彙などを整理し、基本的な日本語を理解し応用することができるようにする。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法を終了し、漢字も300字程度書ける人を対象とする。初級文法を復習・応用しながら様々なトピックのディスカッションを通して語彙を増やす。そして、文型に応じて正しい接続のしかたを学び、文法の運用能力を高め、日本語での表現能力を伸ばす。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	初級文法を終了し、中級に入った人を対象とする。初級文法と関連付けながら名詞相当句や、接続詞、待遇表現といったやや複雑な複文や文法形式を学ぶ。場面に応じて微妙な気持ちや態度を表現できる日本語の運用能力をつけていく。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。基本的な文法練習、短い読み物の読解を通して文法力をつけていく。中級初期の文法を使いながら、やや抽象的なことごとらについて会話ができる。また、少し長めの文を読んだり、自分の意見を書いたりすることができるようにする。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。既習の語彙・文法を整理しつつ派生的な語彙・文法を学んでいく。ややまとまりのある文章を読んだり書いたり、書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができることを目指す。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 2A	初級文法を十分に理解している学習者を対象に、読解や聴解の訓練を中心に中級文法を学んで行く。語彙量を増やし聴解力を高めると同時に短い文章をまとめたり大意を読み取る読解力を養成する。また、中級文法を使って、自分の意見を書いたり、話したりする練習も行う。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 2B	中級中期レベルの学習者を対象に、読解や聴解の訓練を中心に四技能の力をバランス良く統合的に伸ばしていく。語彙量を増やししながら、文章の段落の展開を読み取り大意をまとめる総合的な読解力を身につける。また、既習の語彙や文法を使って、具体的なテーマで事実を述べたり自分の感想や意見を話したりする、コミュニケーション力をつける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Advanced A	中級前半の文法・語彙を終了した人を対象とする。中上級レベルの文法、語彙、表現を学習しながら、バランスの取れた4技能(聞く・話す・読む・書く)の力をつけ、大学の講義が受講できることを目指す。クラスでは、やや抽象的な話題の文章を読み、内容を理解できる練習をする。「書く」「話す」の表現練習を中心に、自分の意見を論理的に述べ、物事を詳しく説明する力を養う。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Advanced B	中級から上級へ進む人を対象とする。引き続き中上級レベルの文法、語彙、表現を復習しながら、バランスの取れた4技能を強化し、大学の専門課目の授業が受講できることを目標とする。社会科学・自然科学など専門に関する文章を読み内容を理解でき、ややまとまりのあるアカデミックな文章を要約できる。また、一般的な話題について論理的に意見を述べたりすることができるようにする。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Advanced A	外国語としての日本語を学ぶのではなく日本語を使って多様な「日本」を学ぶ。内容に焦点を当てた授業である。第一に、日本社会や日本文化に関する様々な文献を読んだり視聴覚教材を見たりすることにより日本社会や文化を理解し自分なりに分析できるようになることを目指す。第二に、ディスカッションやレポート作成を通して、正確に理解し自分の考えを適切に表現するスキルを磨くことで大学の講義理解能力を身につける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Advanced B	上級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。幅広い話題について深みのある文章を理解し表現意図を把握することができる。また専門分野の論文を読解し、要点をまとめたり論理的に自分の意見を主張(書く、話す)したりすることができる、高度な日本語応用力をつけることを目指す。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 1A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、基礎的な漢字(漢字語彙)を勉強し、基礎的な漢字と日常生活で使用される語彙の読み書きができるようになることを目指す。授業では漢字の筆順、画数、音読み・訓読みといった基礎知識を確認するとともに学習漢字を含んだ語彙を学習する。特に読み方、書き方、意味、語彙の使い方を重点的に学ぶ。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 1B	Kanji Courses : Elementary 1 A終了程度のレベルの学習者を対象に、基礎的な漢字(漢字語彙)を勉強し、基礎的な漢字と日常生活で使用される語彙の読み書きができるようになることを目指す。授業では漢字の筆順、画数、音読み・訓読みといった基礎知識を確認するとともに、Kanji Courses : Elementary 1 Aより更に複雑な学習漢字を含んだ語彙を学習する。特に読み方、書き方、意味、語彙の使い方を包括的に学ぶ。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 2A	基礎漢字と日常的で基礎的な語彙を身につけた学習者を対象に、広く日常場面で使用される漢字および語彙を学習する。授業では、まず、漢字の筆順、画数、音読み・訓読み等の基礎知識を確認する。更に漢字の字源、部首、送り仮名、品詞、意味など漢字・語彙を正確に理解し使用するための知識を学び、運用力養成を目指した練習を行う。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 2B	Kanji Courses : Elementary 2 A終了程度のレベルの学習者を対象に、より広い日常場面で使用される漢字および語彙を学習する。授業では、まず、漢字の筆順、画数、音読み・訓読み等の基礎知識を確認する。次に漢字の字源、部首、送り仮名、品詞、意味など漢字・語彙を正確に理解し使用するための知識を学ぶとともに、ことばの使い方を学ぶことで漢字および語彙の運用力を養成する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	「Kanji Courses : Pre-Intermediate A」終了程度のレベルの学習者を対象に、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。「Kanji Courses : Pre-Intermediate A」よりさらに高度な漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に、日常的であるが幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等の簡易な文章で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を見つける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 1B	「Kanji Courses : Intermediate 1 A」終了程度のレベルの学習者を対象に、日常的であるが幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等の簡易な文章で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、「Kanji Courses : Intermediate 1 A」よりも難易度が高い漢字を学び、より高度な語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を見つける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から語彙を学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を見つける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 2B	「Kanji Courses : Intermediate 2 A」終了程度のレベルの学習者を対象とし、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses : Intermediate 2 A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を見つける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし、新聞や雑誌の平易な記事・解説・評論などで使用される漢字と語彙を学習する。そのため、単なる「読み書き」の練習を行うのではなく、漢字・語彙を「語義」「音韻」「書字」「用法」の4要素に分解し、その中でも「語義」「音韻」「用法」を更にカテゴライズ化し分析的に学んでいく。例えば「語義」については「類義語」「反義語」等、「用法」については「語と語のコロケーション(連語)」「和語と漢語の対応」といったカテゴリーに分け、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。留学生は自ら調べ発表することが求められる。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Advanced B	「Kanji Courses : Pre-Advanced A」終了程度のレベルの学習者を対象とし、解説・評論などで使用される漢字と語彙を学習する。そのため、漢字・語彙を「語義」「音韻」「書字」「用法」の4要素に分解し、その中でも「語義」「音韻」「用法」を更にカテゴライズ化し分析的に学んでいく。例えば「語義」については「類義語」「反義語」等、「用法」については「語と語のコロケーション(連語)」「和語と漢語の対応」といったカテゴリーに分け、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。留学生は「Kanji Courses : Pre-Advanced A」よりも難易度の高い課題について調べ発表することが求められる。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に様々な専門である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では「環境」「インターネット」「火山」「景気」といった幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学の講義理解能力を身につける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Advanced B	「Kanji Courses : Advanced A」終了程度のレベルの学生を対象に様々な専門である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では「環境問題」「歴史」「エネルギーと栄養素」「議院内閣制」といった幅広いトピックを題材にそれらで使用される漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学の講義理解能力を身につける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Elementary 2A	初級の文法知識がある学習者を対象とする。さまざまな場面や状況での会話練習を通して、以下のことができるようになることを目指す。 (1) 場面や状況で、会話の目的や相手との関係にあった適切な会話表現や談話構成がわかる。 (2) 語彙・表現を増やし、発話の内容を豊かにする。 (3) 自然な会話を聞く練習を通して、聞く力を伸ばす。 (4) 自分の発音や話し方の癖がわかる。 授業では主にロールプレイとスピーチを行う。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Elementary 2B	Speaking Courses : Elementary 2 A終了程度のレベルの学習者を対象とする。さまざまな場面や状況での会話練習を通して、以下のことができるようになることを目指す。 (1) 多様な場面や状況で、会話の目的や相手との関係にあった適切な会話表現や談話構成が理解できる。 (2) 日常会話で求められる語彙や表現を身につけ、発話の内容を豊かにする。 (3) 自然な会話を聞く練習を通して、聞く力を伸ばす。 (4) 自分の発音や話し方の癖がわかる。 授業では主にロールプレイとスピーチを行う。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	初級後半の文法知識がある学習者を対象とする。さまざまな場面や状況での会話練習を通して、中上級話者になるために必要な技術を身につけることを目指す。 (1) 場面や状況で、会話の目的や相手との関係にあった適切な表現を使い、適切な談話構成で話せる。 (2) ある程度詳しく具体的な事柄の説明などができる。 (3) フォーマルなスタイルで意見が言える。 授業では主に、ロールプレイを行う。クラスのレベルに応じて、スピーチや簡単なディスカッション、簡単なディベートなどの活動も行う。活動を通して、自分の発音や話し方の癖に気づき意識しながら練習する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	Speaking Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象とする。Speaking Courses : Pre-Intermediate Aよりもさらに複雑な場面や状況での会話練習を通して、中上級話者になるために必要な技術を身につけることを目指す。 (1) 場面や状況によって、会話の目的や相手との関係にあった適切な表現を使い分け、適切な談話構成で話せる。 (2) ある程度詳しく具体的な事柄の説明などができる。 (3) フォーマルな表現・語彙を用いて意見が言える。 授業では主に、ロールプレイを行う。クラスのレベルに応じて、スピーチや簡単なディスカッション、簡単なディベートなどの活動も行う。活動を通して、自分の発音や話し方の癖に気づき意識しながら練習する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 1A	中級前半レベルの文法と漢字の知識がある学習者を対象とする。クラスでは、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行う。クラスの目標は、上級話者になるために必要な話す技術を身につけること。具体的には、詳しい説明ができ、段落で話せるようになること、待遇表現を意識した自然な会話ができるようになること、語彙を増やすこと。授業では、個々の学習者の発話における悪い癖も直していく。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 1B	Speaking Courses : Intermediate 1 A終了程度の文法と漢字の知識がある学習者を対象とする。 クラスでは、会話技能を上達させるためにロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行う。クラスの目標は、上級レベルに達するために必要となる会話技術を身につけることである。具体的には、具体的な物事に対して詳しい説明ができ、段落で話せるようになること、待遇表現を意識した自然な会話ができるようになること、語彙を増やすことである。授業では、個々の学習者の発話における悪い癖も直し分かりやすい発話ができるようになることを目指す。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象とする。授業では「音読」と「スピーチ」を行う。「音読」練習により日本語らしい発音や聞き手に伝わる話し方を身につけるようにするのが目標。「スピーチ」では、社会的な話題を論理的に聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにするのが目標。最終日はディベートをする。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 2B	Speaking Courses : Intermediate 2 A終了程度のレベルの文法知識がある学習者を対象とする。授業ではSpeaking Courses : Intermediate 2 Aレベルよりもさらに難易度の高い「音読」と「スピーチ」を行う。「音読」練習により、自然で分かりやすい発音や聞き手に伝わる話し方を身につけるようにするのが目標である。「スピーチ」では、社会的な話題を論理的に聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにするのが目標。最終日はディベートを行う。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Advanced A	初級、中級の基本的な文法が正確に運用でき、新聞記事を読んで大意が取れるレベルの学習者を対象とする。クラスでは、スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンなど様々な形で、社会的なトピックから、日常的なトピックまで話し合う。どんなトピックに対しても、自分の意見をきちんと相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができる力の習得を目指す。毎回聴解練習も行い、会話力に結びつく聴解力の向上を図る。そのうえで、いかに聞き手をひきつける話し方ができるかも考えたい。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Advanced B	Speaking Courses : Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。クラスでは、スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンなど様々な形で、Speaking Courses : Pre-Advanced Aレベルよりもさらに複雑な専門的なトピック、時事問題、および日常的なトピックを話し合う。どんなトピックに対しても、自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができる力の習得を目指す。毎回聴解練習も行い、会話力に結びつく聴解力の向上を図る。そのうえで、いかに聞き手をひきつける話し方ができるかも考えたい。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Advanced A	中級文法が正確に運用でき、新聞記事や一般教養的な文章が理解できるレベルの学習者を対象とする。クラスでは、スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形で、専門的な内容から、時事問題や日常的话题まで話し合う。どのような内容に対しても、自分の意見を的確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができる力の習得を目指す。また、会話力に結びつく聴解力の向上を図る。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Advanced B	Speaking Courses : Advanced A終了程度のレベルの文法が正確に運用でき、新聞記事や一般教養的な文章が理解できるレベルの学習者を対象とする。クラスでは、スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形で、専門的な内容から、時事問題や日常的话题まで話し合う。どのような内容に対しても、自分の意見を的確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができる力の習得を目指す。また、大学の講義やゼミで発表したり議論したりするための能力養成を目指す。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 1A	このクラスは初級終了程度の、書き言葉で文章を書いたことがない学習者を対象とする。Intermediate 1Aでは、「です・ます」体の文章から始め、話し言葉と書き言葉とのスタイルの違いの違いに気づき、句読法やいろいろな記号(括弧、ダッシュ等)及び原稿用紙の使い方を身につけ、「書く」ことに慣れていくことを目標とする。授業では作文を含んだ小クイズがあり、短作文の宿題もある。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 1B	このクラスは中級初期レベルの学習者を対象とする。作文を書き慣れていない学習者が文法の基礎学習とともに書き言葉としての日本語の作文の基礎知識を学び、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。Intermediate 1Bでは、Intermediate 1Aでならなかった句読法、記号（括弧、ダッシュ等）及び原稿用紙の使い方を練習しながらいろいろな種類の文（意見を述べる文や、物事の手順・推移・因果関係及び行為の理由・目的を表す文など）に慣れ、「書く」ことの技術を身につけることを目標とする。学期末には400～600字の作文を課す。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 2A	このクラスは中級中期レベルの学習者を対象とする。中級レベルの文法を確認しながら、いろいろな種類の文を書いていく。フォーマルな文体で長い文章を書いた経験の少ない学習者が簡単なレポートが書けるようになることを目標とする。Intermediate 2Aでは、レポート文に相応しい確かな語彙・表現を使うこと、正しい構造の文や構成がしっかりした段落を書くことを通じて、レポートや小論文を書くための基礎的な表現技術を身につける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 2B	このクラスは中級後半レベルの学習者を対象とする。中級レベルの文法を確認しながら、いろいろな種類の文を書いていく。フォーマルな文体で長い文章を書いた経験の少ない学習者が簡単なレポートが書けるようになることを目標とする。Intermediate 2Bでは、説明文や論説文を分かりやすく要約し、事実と意見をはっきり区別し、事実に基づいて客観的な論説文を書くことを学ぶ。学期末には800-1000字程度のレポートを提出する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Pre-Advanced A	このクラスは中級終了程度の学習者を対象とする。いろいろな種類の文章や論理的な文章の組み立て方を学び、論文作成に必要な基礎的な語彙や表現を身につけることを目標とする。Pre-Advanced Aでは、与えられたテーマについて、理由や根拠を示しながら自己の主張や意見が論理的に書ける。また、読み手を意識しつつ、何をどのような手順で書いていけばよいかというように、分かりやすい文章を書くスキルを身につける。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Pre-Advanced B	このクラスは上級初期の学習者を対象とする。いろいろな種類の文章や論理的な文章の組み立て方を学び、論文作成に必要な基礎的な語彙や表現を身につけることを目標とする。Pre-Advanced Bでは、論文の構成（序論、本論、結論）ごとに、順をおって語彙や表現等を学習する。題材として、医療、福祉、教育、環境、エネルギーなど現代の社会で問題となっていることを取り上げる。また、学生の専門分野の論文を練習の材料として加えることもある。学期末には論文形式に沿った2000字のレポートを提出する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Advanced A	この授業は上級中期の日本語学習を対象とする。レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学び、日本語で論理的な文章を書く総合力の向上を図ることを目標とする。Advanced 1では、一回ごとに異なるテーマを扱う。予習課題としてさまざまな短い論述文の読解・要約を課し、クラスでは学生が提出した要約文の問題点を適宜取り上げ、目的や伝達手段等に応じて、内容が簡潔にまとめ、表現が適切に言い換えられるように演習を行う。また、教室活動の一環として、「読む」、「書く」、グループディスカッションを行うので、学生の積極的な教室活動を期待する。学期末には2500字程度の小論文を提出する。
言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Advanced B	この授業は上級中期以上の日本語学習を対象とする。日本語でレポート、研究発表要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。人文科学、社会科学、自然科学及び理工学などさまざまな研究分野の学術論文を読み、レポートや学術論文の構成要素（背景説明、問題提起、論証、考察など）およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。学生は各自テーマを決め、学期末には5000字程度の論文を提出する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語 I	アルファベットの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学びます。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」、初歩的な運用能力を身につけることが目標です。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習し、その理解を深めます。
言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語 II	ドイツ語 I で培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学びます。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」、やや高度な運用能力を身につけることが目標です。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習します。
言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語 I	基礎的な日常的フランス語を「読み、聞き、話し、書く」能力を習得します。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とします。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習します。
言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語 II	フランス語 I で学んだ基礎知識をもとに、文法体系の学習を完了し、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を習得します。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深めます。動詞としては、フランス語 I で学習した時制に加えて、直説法他の時制を学習します。条件法と接続法等も学びます。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とします。
言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語 I	中国語の発音を習得します。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）です。あわせて、基本的な表現と文法を学びます。
言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語 II	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにします。引き続き、発音練習にも力を入れます。
言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語 I	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業です。ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて、文法の基礎を学びます。また、簡単な会話の表現を勉強し、音声教材を用いた聞き取り、発音練習を繰り返し行います。
言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語 II	ロシア語 I に引き続いて基本的な文法を修得するとともに、より本格的な会話表現の聞き取り、発音練習を行います。また簡単なテキストの読解にも挑戦します。
言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語 I	韓国語の文字や発音、基本文法について学びます。韓国語の文を正確に発音し、聞き取れるようになると、動詞の活用形及び様々な文型を学習していきます。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで培った韓国語の基礎知識を利用して様々な文型を学習しながら基礎会話をマスターする段階です。より高度な運用能力を身につけるために多様な文型を集中的に学習します。
言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅰ	本科目を履修後、学生は、①スペイン語の単語また文を正しく発音できる、②直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができる、③簡単なスペイン語文を辞書を頼りに読むことができるようになります。
言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅱ	「文法」を主体に学習するクラスと「聴解・会話」を主体にするクラスとに分かれます。「文法」クラスでは、いま一步進んだ文法知識を修得した上で、より高度なスペイン語の「読む・書く」能力を身につけることを目指します。一方、「聴解・会話」クラスでは、スペイン語Ⅰで学習した内容を基に、視聴覚教材を積極的に活用し、スペイン語の「聞く・話す」能力の基礎づくりを行います。
	文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいのが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。
	文系ディシプリン科目	先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなか咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにあって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。
	文系ディシプリン科目	歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラーム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ぶなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。
	文系ディシプリン科目	文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなか咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにあって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
文系 ディシプリン 科目	芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのようにに生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。
文系 ディシプリン 科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれません。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきました。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきました。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるでしょう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考えます。
文系 ディシプリン 科目	社会学入門	社会学(sociology)は、社会の(socio-)論理(-logy)を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理(法則)が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものを見方を学んで行く。
文系 ディシプリン 科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰も人の心がどのように働かについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。
文系 ディシプリン 科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりや深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりや学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりや深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。
文系 ディシプリン 科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々なに生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
文系 ディシプリン 科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、とくに法概念論、憲法学、民法学、刑法学の考え方を順に紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】 法学、リーガルマインド、裁判
文系 ディシプリン 科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題
文系 ディシプリン 科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。
文系 ディシプリン 科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉強で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。
文系 ディシプリン 科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治
理系 ディシプリン 科目	デザイン思考	デザイン思考とは、これまでのような技術的な課題解決ではなく、人間 (Desirability) を中心に、ビジネス (Viability)、技術 (Feasibility) の3つを統合するデザインアプローチである (出典: IDEO)。またデザイン思考は、多様な専門性を持つ参加者が、これまでデザイン学の世界で培われてきた可視化やプロトタイプなどのデザイン手法を用いながら、共同して課題発見と解決を行うところに特徴がある。それは、デザイナーの発想法やデザインメソッドを、見た目のスタイリングや色合いではなく、「未知の課題を発見し解決する」ために用いることである。ここでいうデザインとは、社会のしくみのデザインなど、幅広いデザインを意味する。本授業では、今日、地球規模で起きている課題が人類共通の社会的課題となっていること、社会の変化とともにデザインの役割が変化してきたことを、先進的なケーススタディー事例から理解する。その理解をもとに実践的方法論としてデザイン思考プロセスにトライし、経験を通じて学ぶ。最後に成果をまとめレポートを作成する。
理系 ディシプリン 科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原理について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディシプリン 科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原則について理解を深めさせることを目的とする。
理系 ディシプリン 科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）など
理系 ディシプリン 科目	微分積分学	1変数および2変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。 【キーワード】 極限とその性質（数列の極限、等比級数、関数の極限）、微分の定義と計算、積分法（微分積分学の基本定理、部分積分、置換積分、有理・無理関数の積分）、2変数の偏微分、2重積分と累次積分
理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習A	微分積分学・同演習AとBを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Aでは、主に1変数関数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）
理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習B	微分積分学・同演習AとBを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Bでは、多変数関数（主に2変数関数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換）
理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習I	微分積分学・同演習I、II、IIIを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Iでは主に1変数関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）
理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習II	微分積分学・同演習I、II、IIIを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習IIでは主に多変数関数の微分と関連する話題を学ぶ。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数合成関数の微分法、多変数関数テイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理と応用
理系 ディシプリン 科目	線形代数	ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、行列と線形写像、逆行列、行列式、固有値と固有ベクトル

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディシプリン 科目	線形代数学・同演習A	線形代数学・同演習AとBを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学・同演習Aでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列
理系 ディシプリン 科目	線形代数学・同演習B	線形代数学・同演習AとBを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学・同演習Bでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化
理系 ディシプリン 科目	数学演習 I A	将来、数学のより高度な知識とより深い理解を必要とする学生を対象に、線形代数・微分積分の演習を通して、数学の基礎力・応用力をつけることをめざす。 【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算
理系 ディシプリン 科目	数学演習 I B	積分、関数列、多変数の微分、線形性、固有値、固有ベクトル、行列の対角化 【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）
理系 ディシプリン 科目	数学演習 II	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、1変数及び多変数関数の微分法及びその応用、1変数及び多変数関数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）
理系 ディシプリン 科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析
理系 ディシプリン 科目	身の回りの物理学 A	例えば、「晴天の空は青く、夕焼けは赤い」という身の回りの物理現象などについて、可能な限り数式を用いない分かりやすい講義を通して、自然のしくみを理解する学問としての物理学を学ぶ。日常経験していることを物理の視点から考察することで物理の面白さと重要性を再認識し、物理に対する興味を醸成する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系ディシプリン科目	身の回りの物理学 B	例えば、「晴天の空は青く、夕焼けは赤い」という身の回りの物理現象などについて、可能な限り数式を用いない分かりやすい講義を通して、自然のしくみを理解する学問としての物理学を学ぶ。日常経験していることを物理の視点から考察することで物理の面白さと重要性を再認識し、物理に対する興味を醸成する。
理系ディシプリン科目	物理学概論 A	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、物理学概論 A、B の両者を一緒に選択することを強く推奨する。物理学概論 A 演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。基幹物理学 I A の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。
理系ディシプリン科目	物理学概論 B	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、物理学概論 A、B の両者を一緒に選択することを強く推奨する。物理学概論 B 演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。基幹物理学 I B の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学と熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学と熱力学を理解する。
理系ディシプリン科目	物理学概論 A 演習	物理学概論 A に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。
理系ディシプリン科目	物理学概論 B 演習	物理学概論 B に対応した演習科目。 電場と磁場および熱力学の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象および熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。
理系ディシプリン科目	基幹物理学 I A	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、基幹物理学 I A、I B の両者を一緒に選択することを強く推奨する。基幹物理学 I A 演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその 1 例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の 3 法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディシプリン 科目	基幹物理学 I B	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、基幹物理学 I A、I B の両者を一緒に選択することを強く推奨する。 基幹物理学 I B 演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその具体例としての電磁気学と熱力学を学ぶ。前半では、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。後半では、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。それらの基本概念や基本法則を、具体的な現象に応用して理解する。
理系 ディシプリン 科目	基幹物理学 I A 演習	基幹物理学 I A に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。
理系 ディシプリン 科目	基幹物理学 I B 演習	基幹物理学 I B に対応した演習科目。 電場と磁場の概念および熱力学の概念をより深く理解し、電気・磁気現象および熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。
理系 ディシプリン 科目	物理学の進展	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「基幹物理学 I」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。
理系 ディシプリン 科目	基幹物理学 II	「基幹物理学 I」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への入門として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。
理系 ディシプリン 科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。
理系 ディシプリン 科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要となる物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α 線, β 線, γ 線, 中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α 壊変, β 壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。
理系 ディシプリン 科目	身の回りの化学	化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系ディシプリン科目	基礎化学	化学の基本概念に基づいて、物質の構造、性質や反応をどのように理解するかを講義する。化学の基礎を高校レベルから復習し、大学での専門教育を理解するのに必要な知識や理解力を鍛える。
理系ディシプリン科目	無機物質化学	無機物質化学では、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解、次に原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、代表的な無機化合物の性質との関係を修得する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。
理系ディシプリン科目	有機物質化学	この科目では、有機化合物の構造と反応性について系統的に理解するための基礎知識の修得を目的とする。はじめに身の回りの有機化合物の特徴について概観した後、有機化合物の官能基別の分類法と基本的な化合物命名法について説明する。次に、異性体の分類法や表示法の概要と、分子構造を立体的に考えることの重要性について学ぶ。そして、いくつかの代表的な反応について、電子移動の方向とその起こりやすさがどのような要因に基づいているのかを考え、反応の基本的な原理を理解する。最後に、それぞれの官能基に特徴的な反応と合成法について代表的な例を見ていく。
理系ディシプリン科目	基礎化学結合論	化学の基本概念の1つである量子化学的なものの見方・考え方の定量的理解(数学を用いる)を目的とする。すべての物質の化学的性質は、その物質の構成単位である微視的な粒子(原子・分子)の性質によって決まる。そこで、原子の電子構造、元素の周期的性質、分子の生成と化学結合の種類、分子の形等について、電子軌道、分子軌道を基盤として学ぶ。
理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学	物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが可能である。この講義では熱力学の基本法則に基づき、分子の集合状態やその変化、化学反応などの現象を自由エネルギー変化の観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを、演習を交えながら学ぶ。
理系ディシプリン科目	現代化学	無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から21世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原則に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。
理系ディシプリン科目	基礎生化学	タンパク質、糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。
理系ディシプリン科目	機器分析学	機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディシ プリン 科目	生命の科学A	<p>授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など）
理系 ディシ プリン 科目	生命の科学B	<p>授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用
理系 ディシ プリン 科目	基礎生物学概要	<p>細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化
理系 ディシ プリン 科目	細胞生物学	<p>生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成）
理系 ディシ プリン 科目	集団生物学	<p>主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディシ プリン 科目	分子生物学	<p>遺伝子の実体であるDNA, ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し, 遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを旨とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能 (DNA, RNAの構造, DNA複製, 転写・翻訳) ・遺伝子発現の調節 (転写調節, 翻訳調節) ・遺伝子操作の基礎 (PCR法の原理, 遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎)
理系 ディシ プリン 科目	生態系の科学	<p>増加し続ける世界の人口に対応するためには, 効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で, 生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要がある。これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには, 個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし, 生態学の全体像を理解するには, 個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの, 生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。</p> <p>具体的な内容は以下のような項目からなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学, 個体群生態学, 群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 <p>生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。</p>
理系 ディシ プリン 科目	地球と宇宙の科学	<p>現在の太陽系では, 地球だけが, 表面に液体の水を安定に保持し, 生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では, まず, 太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら, 地球の特徴を認識してもらう。そのうえで, 地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらう。</p>
理系 ディシ プリン 科目	地球科学	<p>現在の地球を構成する物質と環境は, 個体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では, 地球の表層, 地球の実質, 化石等による生命起源の探索という3つの主要なテーマを通して, 私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び, 理解を深める。</p>
理系 ディシ プリン 科目	最先端地球科学	<p>宇宙, 太陽活動と電磁圏, 大気や海洋, 生物と地球表層環境, 地球惑星の物質科学や力学, 地球や惑星の形成や進化</p>
理系 ディシ プリン 科目	宇宙科学概論	<p>高等学校での地学の履修率がほとんど0%に近いことを踏まえた上で, 太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし, 太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。</p>

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディシ プリン 科目	図形科学	<p>私たちが取り巻く大小さまざまな三次元の対象物（例えば機械や建物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられています。また、ディスプレイやスライドをはじめとする表示メディアには、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現されます。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえます。本科目を学ぶ目的は、講義と演習を通じて、これらの能力を身につける事にあります。学期の前半は、図形の表現・解析の基礎である投影の概念と正投影法の規則を、点や直線・平面・立体を例に修得します。後半では、立体の切断や相貫・展開など前半の応用に加え、正投影法以外の投影法（軸測投影・斜投影・標高投影・透視投影・陰影）の中から、受講対象者に必要と考えられる投影法を併せて修得します。</p>
理系 ディシ プリン 科目	空間表現実習 I	<p>図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることでしょう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要があります。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得します。すなわち、工業系設計・製図が重要な場合は、図面に関する国際的な取り決め事項（ISO・JIS製図関連規格）や図面に特有の慣用的表現法・作図技法などを中心とした講義項目、建築系設計・製図に重みを置く場合は、建築物の生産プロセスにおける各種図面の役割と建築製図法の基礎に関する講義項目、また環境系設計・製図に重みを置く場合は、コンセプト・イメージスクラップ・エスキース・外部空間の構成や建築物の構成要素・植栽・造園に関わる講義項目が準備されています。</p> <p>これらの講義内容をより確実に身につけるため、文字・線の練習、ねじや継手など機械要素部品の写図・スケッチ及び製図、建築図面や造園図面のコピー、イメージスクラップの作製、外部空間の改造提案に関するプレゼンテーション用図書・模型の作製・製作と発表、実在する建築物の実測と製図など多くの実習課題の中から、各専門の最適課題について主に製図器械やパソコン（CADソフト）を用いて製図実習を行います。</p>
理系 ディシ プリン 科目	世界建築史	<p>世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。</p>
理系 ディシ プリン 科目	日本建築史	<p>日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。</p>
理系 ディシ プリン 科目	建築デザイン	<p>建築のデザインを論理的に理解するために、デザイン理論の基礎、現代建築の事例を学ぶ。</p>
理系 ディシ プリン 科目	コンピュータープログラミング入門	<p>放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウェアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。</p>

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	自然科学総合実験 (基礎)	自然科学総合実験は、全理系学部に通じた内容で、物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたるそれぞれのテーマに沿った観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通じて実験の基本的手法を学びます。 自然科学総合実験_基礎では、全理系学部に通じた内容で、物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な6テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通じて実験の基本的手法を学ぶ。
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	自然科学総合実験 (発展)	自然科学総合実験_発展では、全理系学部に通じた内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる発展的な6テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通じて実験の基本的手法を学ぶ。
サイ バ ー セ キ ユ リ テ イ 科 目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットや ICT 技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっています。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっています。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められています。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後 ICT 国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学びます。
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的な能力の基礎を身につけることを目的とします。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の習得を目指します。 *アダプテッドコース 病气やけが、障害などの理由により、通常健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されています。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定します。
総 合 科 目	アカデミック・フロンティア I	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。学内から19名の講師を選抜し、研究内容の偏りがないようにI, II, IIIに配分する。学生はI, II, IIIのうち、興味のある授業を受講することで、九州大学で現在進行中の最先端研究を目の当たりにすることとなる。
総 合 科 目	アカデミック・フロンティア II	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。学内から19名の講師を選抜し、研究内容の偏りがないようにI, II, IIIに配分する。学生はI, II, IIIのうち、興味のある授業を受講することで、九州大学で現在進行中の最先端研究を目の当たりにすることとなる。
総 合 科 目	女性学・男性学 I	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既存概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。
総合科目	日本事情	この授業は留学生のために開講されるが、異文化に興味がある日本の学生にもぜひ参加して欲しい。以前から「留学生と日本の学生は友達になりにくい」という話はよく聞く。それは出会うチャンスがないこと、一緒に何かをする時間や場所がないこと、などが原因であると指摘されている。この授業では、コミュニケーションゲームなどを用いて、留学生と日本の学生が直接話をし、お互いに学んでいく。
総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っています。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげます。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われていますが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱います。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組む観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとします。
総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っています。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげます。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組まれ始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動です。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組む際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとします。
総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in "Law in Everyday Life A", students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえて、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行います。
総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこないます。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行います。これらの実習を通して、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養います。
総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義はオムニバス形式で、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とします。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨みます。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深めます。
総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。
総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供します。
総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業です。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講します。実験科目なので、希望者が多い場合は受講者数を20名までとします。自然科学は「理系」のひとつのものではありません。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができます。実験テーマは科学の広い分野から選ばれています。
総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがあります。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもあります。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明します。
総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期ですが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくありません。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行います。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設けます。
総合科目	アジア埋蔵文化財学A	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。
総合科目	アジア埋蔵文化財学B	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。
総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線 I	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。
総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けています。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもあります。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要なと理論と方法に関する基礎知識を学びます。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考えます。「グローバル社会を生きるⅠⅠ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ばれることをお勧めします。
総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けています。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもあります。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学びます。それをふまえて、問題解決の方法を皆さんと一緒に考えます。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれます。
総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっています。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討します。その際、特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことが重要ではないかと考えます。コトバと社会と人との橋渡しができるよう、日本語教育をめぐる問題を一緒に考え、行動してみませんか。
総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっています。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討します。その際、特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことが必要ではないかと考えます。コトバと社会と人との橋渡しができるよう、日本語教育をめぐる問題を一緒に考え、行動してみませんか。
総合科目	フィールドに学ぶA	私たちをとりまく情報環境は大きく変わってきていますが、現場に立って物事をみることの大切さは変わっていません。フィールドに学ぶ姿勢は、分野を問わず学問の基礎として、また、人生における様々な選択や決断をより適切に行うために、重要です。この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学びます。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養います。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行いますので、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれます。
総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性(倒産可能性)をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。
総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	ことばの科学	ことばの音韻・語彙・文法の構造やそれらの歴史的発達のあり方、意味伝達・メッセージ理解のメカニズム、言語習得のプロセスなどのさまざまな観点について、英語、日本語を始めとするアジアやヨーロッパの言語の具体例を検討しながら多面的に分析します。一連の講義を通じて、「ことば」という私たちにとってごく身近な事象に対し、科学的にアプローチする視点を身につけます。
総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供します。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり など
総合科目	数理医学	医学への数学の応用は未だに萌芽期にあります。本講義では、この分野の将来展望を、日本のトップ研究者8人のリレー講義形式で紹介します。
総合科目	医療倫理学 I	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的变化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグローバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学 I は、医療倫理学 II (応用編) の基礎学習となる。
総合科目	医療倫理学 II	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。
総合科目	科学の進歩と女性科学者 I	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通じ、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。
総合科目	科学の進歩と女性科学者 II	『科学の進歩と女性科学者 II』では『科学の進歩と女性科学者 I』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。
総合科目	糸島の水と土と緑 I	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がります。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学びます。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学びます。本講義は、農学系教員が、生物資源環境に関わる基礎的な内容を中心に、水、土、緑の順番で授業を行います。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がります。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学びます。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学びます。本講義は、農学系教員が、生物資源環境に関わる応用的な内容を中心に、水、土、緑の順番で授業を行います。
総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合っており、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。
総合科目	食肉加工の理論と実践 -食への理解を深める-	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行います。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていきます。
総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。
総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。
総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通じ、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。
総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	人類は「農の営み」として、生物学的一次生産者である植物とその環境への働きかけを持続・発展させてきた。本授業では、農作物の生産性と品質を支える基礎となる植物と環境間のエネルギーと物質の輸送現象（光合成、蒸散、根の養水分吸収、光合成産物の転流、呼吸、熱収支等）に関して、輸送の場、メカニズム、環境応答、および調節法の概要について講義し、「農の営み」の基本的事項への理解を促す。
総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	本講義では、セキュリティを考慮したネットワークやサーバーサイドのエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成されます。座学では、初めにウェブアプリケーションの構成やネットワークの構築の方法などを学びます。システムの構成や動作原理を学習したのちに、サイバー攻撃の具体的な手法を学び、システムのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施して行けば良いのかを学んでいきます。演習では、システムにサイバー攻撃を行い対策の重要性を体験してもらった上で、防御策を施す手法を学びます。最終的な課題として、セキュリティを考慮したウェブサービスを開発してもらいます。
総合科目	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	本講義では、セキュリティを考慮したハードウェアの設計や製作などのエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習します。各講義は、座学と演習で構成されます。座学では、初めに電子デバイスで使用する電子部品の役割などの知識を学びながら、電子回路を設計する手法を学びます。電子回路の基礎的な知識を学習したのちに、ハードウェアに対するサイバー攻撃の具体的な手法を学び、ハードウェアのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施していけば良いのかを学んでいきます。演習では、ハードウェアに対するサイバー攻撃を行い、対策の重要性を経験してもらった上で、防御策を施す手法を体験します。最終課題として、セキュリティ対策を行ったハードウェア作品を提出してもらいます。
総合科目	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	セキュリティを考慮したIoT機器のエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習します。各講義は、座学と演習で構成されます。座学では、初めにIoT機器の構成や知識を学びながら、IoTサービスを設計する手法を学びます。IoTに関する基礎的な知識を学習したのちに、ネットワークやウェブサービスやハードウェア等に対するサイバー攻撃の具体的な手法を学び、IoTサービスのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施していけば良いのかを学んでいきます。演習では、IoTサービスに対するサイバー攻撃を行い、対策の重要性を経験してもらった上で、防御策を施す手法を体験します。最終課題として、セキュリティ対策を行ったIoTサービスを開発して提出してもらいます。
総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介します。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義します。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学びます。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の9研究室から一つの研究室を選び実験を行います。
総合科目	Contemporary American Society: A Sociological Introduction	This course overviews, in an introductory manner, major issues in contemporary American society from a sociological perspective. Main subjects include contemporary perspectives and key concepts in sociology and issues related to social stratification, poverty, gender, ethnicity, the family, socialization processes, formal organizations, and other selected social institutions. Upon completion of this course, students will gain basic understanding of foundational principles of sociology as a discipline and of various aspects of American social lives today. As its overarching goal, this course aims to help students develop, and/or further strengthen their critical perspective that is significant to examine current challenges and future prospects of American society from a cross-national comparative perspective. There is no prerequisite—also encouraged to enroll in this course are those students who have no prior experience of learning sociology or contemporary American society. このコースでは、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含みます。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることが出来ます。このコースは、国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としています。履修条件はありません。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生がこのコースを受講することを推奨します。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
総合科目	アイデア・ラボ I	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られません。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行います。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供します。一部の講義ではゲストによる講義も計画しています。
総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学びます。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである (Drucker, 1993)。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスです。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会を発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学びます。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視します。
高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考 (Design Thinking) とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル (人間中心デザインに基いた製品開発手法) を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、「描きながら考える」ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。
高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を1つ1つ取り上げ、これらの基本的仕組み (アルゴリズム) を理解し、その応用例を概観する。
高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。
高年次基幹教育科目	動的現象の科学 (Dynamical Phenomenon)	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。
高年次基幹教育科目	誘導現象の科学 (Inductive Phenomenon)	連続的な流れ (流体) を記述する数学的な取り扱い手法であるベクトル解析の技法を修得し、この応用として電磁気現象への適用を行いながら、特に、電磁誘導現象を自然界の物理法則として理解する。これをもとに我々の身の回りの電磁気現象に再度注目し、これらを利用した日常的な生活に目を向け、電磁気現象 (電磁誘導現象) の基本的な理解を得る。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	古代ギリシアの自然学の発生から、ニュートンによる近代科学の完成までを講義する。各理論の詳細には立ち入らず、「世界観」がどのように変遷していったかに注目しつつ講義する。特に、古代から「空虚」の存在の有無を巡ってどのような議論が交わされてきたかに焦点を当てる。空虚の存在は、空間が無限か有限か、物質は無限分割可能かなど「世界がいかにあるか」にもかかわる重要な問題である。また、いかに、目的論的世界観から機械論的世界観への移行したかにも注意を払う。
高年次基幹教育科目	科学の歴史B	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。
高年次基幹教育科目	科学の基礎 (哲学的考察)	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。
高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、など。
高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。
高年次基幹教育科目	Brain and Mind	What is consciousness? How does the brain process information for perception, memory, et cetera? These questions can be looked at from many angles: psychology, philosophy, neuroscience, and medicine. The goal of this course is to address these questions in an open-minded and creative way, using scientific methods. We will focus on the basic principles of brain structure and function, the current trends in research, and the importance of this field for society and well-being. 意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原則、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。
高年次基幹教育科目	現代社会 I	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。
高年次基幹教育科目	現代社会 II	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。
高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資史料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。
高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資史料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。
高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資史料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。
高年次基幹教育科目	EU論基礎—制度と経済—	EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっています。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学びます。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学びます。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得することができるでしょう。
高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。
高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。
高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テキストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。
高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法です。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義します。
高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在します。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんあります。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献しましたが、その反面、環境問題を引き起こしたのもや起こしつつあるものもあります。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介しします。
高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。
高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について、リレー講義方式で講義を行う。
高年次基幹教育科目	自然災害と防災	私たちが住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっています。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習します。
高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 I	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々ですが、具体例を見ながら、この多様性を理解していきます。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習します。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるでしょう。生態系(エコシステム)を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学びます。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々ですが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらいます。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義します。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習します。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるでしょう。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能Ⅱ	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義します。生態系の構造と機能Ⅰでは、主に生態系レベルでの構造と機能に注目しますが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てます。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習してもらいます。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していきます。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説します。
高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっています。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫ります。この問題はジェンダーとして議論されてきました。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探ります。
高年次基幹教育科目	ボランティア活動Ⅰ	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とします。このために、教育的要素と教育的効果が認められるボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位を認定します。
高年次基幹教育科目	ボランティア活動Ⅱ	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とします。このために、教育的要素と教育的効果が認められるボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位を認定します。
高年次基幹教育科目	インターンシップⅠ	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とします。このために、教育的要素と教育的効果が認められるインターンシップを学外における学修活動の成果として単位を認定します。
高年次基幹教育科目	インターンシップⅡ	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とします。このために、教育的要素と教育的効果が認められるインターンシップを学外における学修活動の成果として単位を認定します。
高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。
高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施できるようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。
高年次基幹教育科目	バイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。
高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。
高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とします。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学びます。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考えます。
高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。
高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化	生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および、環境、食料、資源エネルギーに関わる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。
高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。
高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。
高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	考古学を中心とした人類史研究、広域東アジアとして歴史過程を探求する歴史学、現代アジアの広域秩序のダイナミズムをとらえる人文社会科学を軸にした東アジアと日本の学際探究を論じる。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	プレゼンテーション基礎	本講義では、基礎的・汎用的能力の一つとしてプレゼンテーション能力を捉え、講師が開発した並行反復学習法によるプレゼンテーション教育をおこないます。並行反復学習法では、A「知識領域」（テーマ）においてB「発表技術」とC「マネジメント」を並行して学習し、AからCを1セットとして2セット反復することで、様々な場面で応用可能なスキルを確実に身に付けます。講義はどちらかという人前で話すのは苦手だという学生さんに照準を合わせて、和やかな雰囲気を進めますので、関心のある方は気軽に受講してください。プレゼンテーションの活動の中で、自己理解、グループディスカッション、リフレクションについても学びを深めます。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	レトリック基礎	レトリックは修辞技法ともいわれ、弁論や文章の表現技法を指します。この「レトリック基礎」では、文章表現に焦点を絞り、言語を用いていかに学術分野にふさわしく効果的な表現をするかを学びます。授業は集中講義形式で、前半では日本語、後半では英語による文章の書き方を学びます。前半の和文の技法では、卒論を含む学術論文の論理展開や、研究予算の申請書を作成する際のポイントなどを扱います。また後半の英文の技法では、英語論文を書く際の即戦力になるように、英語論文の基礎以外に、日本人に多い英語表現の誤りや文法のミスなども扱います。まだ英語論文を書いたことのない学部生はもちろん、実際に執筆中の大学院生にも役立つような講義を予定しています。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	医療における倫理	体や薬にまつわる様々な話題を提供し、生命の倫理について学ぶ。また、西洋医学だけでなく、東洋医学についても講義する。
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士を受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直してみる場所としたい。議論するトピックに関しても、受講者からの積極的な提案を歓迎する。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	社会と倫理	学生は倫理学の理論（例えば、和辻哲郎、あるいはレヴィナスの倫理学）を詳細に学び、それをもって、現代国際社会の問題を考察する。
高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下IC）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ICの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ICを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。
高年次基幹教育科目	薬害	薬害問題に関し、将来医療人となる学生に対して医療倫理や社会的・人権学習的な観点からの理解を深め、医療人としての薬害防止に対する意識や姿勢を育む。
高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。
高年次基幹教育科目	研究企画・産学官連携特論 I	本授業は講義と演習により構成される。講義は知的財産管理と産学連携マネジメントを適切に行う上での必要な知識を学ぶことができる。また、講義で学んだ知識を具体的な産学連携課題を題材とする演習で使うことにより、知的財産管理と産学連携マネジメントについて深い理解を得ることができる。 本講義は研究企画・産学官連携特論 I、II の2部で構成される。研究企画及び産学官連携について深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 研究企画・産学官連携特論 I においては、研究企画及び産学官連携を進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶことができる。研究企画・産学官連携特論 II においては、実際に研究企画・産学官連携業務に携わっている講師の方々による各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、研究企画及び産学官連携に関する幅広い知識及び知見を得ることができる。
高年次基幹教育科目	研究企画・産学官連携特論 II	本講義は研究企画・産学官連携特論 I、II の2部で構成される。研究企画及び産学官連携について深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 研究企画・産学官連携特論 I においては、研究企画及び産学官連携を進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶことができる。研究企画・産学官連携特論 II においては、実際に研究企画・産学官連携業務に携わっている講師の方々による各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、研究企画及び産学官連携に関する幅広い知識及び知見を得ることができる。
高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常の生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。

授 業 科 目 の 概 要 (基 幹 教 育 科 目)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
高年次基幹教育科目	ビジネス統計学	ビジネスモデルの構築、ビジネスデータの解析において必要となる分散分析、単回帰分析、重回帰分析、時系列解析、予測、ノンパラメトリックス検定、カイ二乗検定などについて、具体例に基づきつつ理論と応用の両面から学ぶ。
高年次基幹教育科目	社会統計学A	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方を解説を行う。
高年次基幹教育科目	社会統計学B	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方を解説を行う。
高年次基幹教育科目	社会調査法 I A	質問紙調査の際、統計的データをまとめたり分析したりするのに必要な、基礎的な統計学的知識を教授する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、統計ソフトRを用い、実際に計算をする演習を行う。量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。
高年次基幹教育科目	社会調査法 I B	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。具体的には、統計的検定の理論、2群の平均値に関する分析、多群の平均値に関する分析について講義を行う。
高年次基幹教育科目	社会調査法 II A	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など)を紹介し、実際に演習をおこなう。社会学における「社会」のとらえ方と、質的/量的社会調査法について概説する。
高年次基幹教育科目	社会調査法 II B	フィールドワークなどの質的調査の手法や調査過程について、国内外での実施例をもとに解説する。
高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。文系・理系を問わず、これからの日本社会を背負っていく九大生にとって、いま憲法について学んでおくことは極めて重要な課題の一つであるだろう。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。